

土森委員長 ただいまから、議員定数問題等調査特別委員会を開きます。御報告いたします。大野委員から、身内の御不幸のため本日の委員会を欠席したい旨の連絡があつております。本日は、議員定数問題等に関する検討課題等について御協議願うため、お集まりをいただきました。それでは、お手元の協議事項の順に進めてまいりたいので、御協力願います。

1. 議員定数問題等に関する検討課題

土森委員長 最初に、資料1の「議員定数問題等に関する検討課題について」であります。このことについては、前回の委員会において、検討課題の2の「選挙区」等について会派に持ち帰り検討することとしておりました。資料1は、こうした検討の経過を整理したものですので、適宜御参考に願います。また、新たな資料として、総定数を37人とし高岡郡選挙区を分区した場合の試算表もお手元にお配りしてあります。それでは、まず、2の「選挙区」についてであります。このことに関しては、これまでの協議において、県政に民意を反映させるための適正な面積や地域の結びつきといった生活圏等を考慮し、高岡郡選挙区は川筋により分区することが適当であるという御意見が出たため、高岡郡選挙区を構成する町村を対象に意見交換会を実施するなど、慎重に協議を進めてきました。その結果、前回の委員会までに、高岡郡の一部は隣接する吾川郡との結びつきが強いことを考慮する必要がある、また1人区の解消の問題も含めて、黒潮町の単独選挙区の問題と合わせて考えることを提案するといった御意見もいただいたところです。本日は、これらの論点についての各会派の検討の結果をお伺いし、結論を出していきたいと思っております。なお、黒潮町の単独選挙区の問題と合わせて考えることも提案されておりますので、5の「町村の区域の単独選挙区」と一体的に協議することといたします。それでは、御意見をいただきたいと思っております。

塚地委員 今の委員長の御報告の中で結論を出すという話がありましたが、それは、きょうの会で合意しなければ採決をとるということも含まれているのでしょうか。

土森委員長 きょうは採決まではしません。最終的にまとめるときに採決になると思っておりますので、きょうは協議の中で決められるところは決めていくということでありまして。

塚地委員 はい。

土森委員長 それでは、御意見をいただきたいと思っております。まず、自由民主党。

明神委員 今、高岡郡選挙区の中で分区が言われておりますけれども、仮に、越知町、佐川町、日高村でいくとなった場合、それに今言われておりました結びつきが強い吾川郡の仁淀川町を合区しても、基礎配当は1人であります。となると、吾川郡選挙区を分区すればいい町単独の選挙区となることから、吾川郡選挙区は現行どおりでいいと思っております。それと黒潮町につきましては、南海トラフ地震による34メートルの津波から犠牲者を限りなくゼロにする対策を全力で進めている最中でありまして、現行どおり黒潮町単独の選挙区でいいと思っております。

上田(周)副委員長

まず、高岡郡選挙区を2つに分区することについてでございます。
先ほど明神委員からお話がありましたが、越知町、佐川町、日高村については、議員1人当たり人口格差が、高岡郡としては1.774であるのが、高岡郡分区の試算表を見ますと2.215。

いわゆる人口格差が拡大するといったことなどから、新たに1人区を設けることは理解が得られないといったことが考えられますので、枠組みについては、これからの議論もあろうかと思えますけれども、黒潮町選挙区も含んださらなる検討が必要だと、県民の会は考えております。

それから、高岡郡の一部は隣接する吾川郡との結びつきが強いことを考慮する必要があるという前回の御意見です。

これについては、特に仁淀川町は、旧町村単位、いわゆる旧仁淀村とか旧池川町、旧吾川村と、佐川町、越知町ということで、流域の歴史的背景とか結びつきが強いことを考えますと、一度、関係する首長とか第三者の意見を聞く必要があるのではないかと考えています。

黒潮町の単独選挙区の問題につきましては、前回の特別委員会におきましても、単独選挙区について議論がされております。結果的には公選法第15条第4項で現行どおりという経緯がございますけれども。

今回の試算表を見てみますと、議員1人当たり人口に対する選挙区人口の割合がいわゆる1票の格差でございますが、前回の0.599から今回は0.570になっていることなどを考え合わせるとき、引き続いて単独選挙区とするかどうかについては、慎重に検討をしなければならないということを考えています。

塚地委員

日本共産党は、一貫して、1人区をどう減らしていくか、広い民意を県政に反映できるのかということが今回の区割りの見直しにおいて検討すべき第一義的課題というふうに、お伝えをしておりました。

それで、高岡郡選挙区の分区ということになりまして、先ほど自由民主党が言われた案でということになりますと、新たに1人区がふえるという区割りになります。そこは、せんだっての高岡郡の首長からの意見聴取の中でも1人区を見直すべきという御意見は多数出されておりましたので、その意向に沿った区割りにすべきではないかということを考えております。

区割りの細かい話は、先ほど県民の会からもありましたが、仁淀川町を含む川筋をどうするかという課題も出てまいりますので、再度、細かい数字も挙げていただいて、検討のし直しをすべきではないかというふうに考えております。

黒潮町の件につきましては、先ほどもお話がありましたが、0.570という本当に半数を切るぎりぎりのところで1町1県議ということになっています。確かに、黒潮町の海岸線の課題というのは大きなものがありますが、中土佐町も含めましてこの海岸線問題というのは考えていく必要があるというふうに思いますので、1人区を海岸線で考えて解消する。

黒潮町も含め高岡郡全体の分区について、1人区を減らす方向で検討すべきというのが、日本共産党の意見でございます。

土森委員長

中土佐町と黒潮町を1つの選挙区にせよということですか。

塚地委員

海岸線沿いでですね。

土森委員長

須崎市を含めてということではないね。

塚地委員

須崎市を含めてということではございません。

池脇委員

まず、高岡郡選挙区です。

- せんだって関係の首長さんからお話を聞かせていただきまして、川筋のつながりは大事にしてもらいたいという声がありました。そのときにも仁淀川町は同じ川筋ですよということもありましたので、仁淀川町の関係の方にお話を聞くということは大事ではないかなと思います。その上で総合的に判断をしていってもいいのではないかと。
- それから、黒潮町の件です。
先ほど来言われているように 0.570 と厳しい数字が出ております。今回はこの線でのということも考えられますけれども、では次回はとなったときにどうしますかということが当然想定されるわけですから、その点も踏まえての議論をしておく必要があるのではないかなという考えであります。
- 合区にするとかしないとかいうこともあると思いますけれども、この点についても関係の地域の皆さんの御意見を聞く必要があるのではないかなという意見でございます。
- 土森委員長 仁淀川町と黒潮町の御意見を聞くということですね。
黒潮町の場合、将来 0.5 を割る可能性もあるが現行は 0.570 なので、次の課題としてこれを残すと。
そういうまとめでいいですね。
- 池脇委員 はい。
- 野町委員 黒潮町につきましては、先ほど来お話がありますように、課題として想定されるのが非常に大きな部分があります。そういった意味でいいますと、今回は単独選挙区でいってもらいたいというところです。
吾川郡の仁淀川町を含めた川筋の問題につきましては、高岡郡と同じように、首長あたりにしっかり御意見を聞いてから検討をするのがよろしいのではないかと思います。
- 土森委員長 自由民主党からは、吾川郡選挙区は現行どおり、高岡郡選挙区は、越知町、佐川町、日高村と他のところを分ける、黒潮町選挙区は単独選挙区で今回は残すという御意見です。
いろいろ話は出ましたが、確かに、仁淀川町の話は聞く必要があるかもわかりませんね。
その辺についてちょっと御意見を伺いたいと思います。聞く必要があるかどうか。
- 塚地委員 多分、この間の首長の御意見でも仁淀川町の話は出ていましたし、川筋ということに割とこだわった御発言もありましたので、委員会としてはとるべき対応だと思います。
- 土森委員長 高岡郡の首長に話を聞いたような内容で、仁淀川町の町長にも聞いておく必要があると。
- 上田(周)副委員長 同じような意見ですが。
仁淀川町は、平成 18 年に 3 町村が合併した町でして、もともと、秋葉祭りで有名な旧仁淀村は高岡郡です。そういった意味で、高岡郡内の首長さんも、川筋ということで、文化とか歴史的な背景とつながりがあるということでございましたので、県民の会としてもお話を聞いたらという思いがしております。
- 土森委員長 仁淀川町の意見を聞くという意見が、今、県民の会と公明党と日本共産党から出ました。

塚地委員	野町議員もおっしゃっていました。
土森委員長	自由民主党はどうですか。 仁淀川町の町長に御意見を聞いてはどうかと。こういうことですね。
明神委員	聞くことはいいかもしれませんが。 吾川郡を割った場合には、また1町1人区ができるわけですから、そこら辺も考えたら他のことも含めた上で検討しなければいけない。もし、吾川郡の仁淀川町を高岡郡選挙区の一部に合区すると、いの町単独で1人区選挙区となるわけです。 そこら辺を考えた上でのことでしょうか。
塚地委員	その点もいろいろ検討いたしました。 例えば、川筋をすごく大事にしているという首長の御意見もあったのですけれども、いの町と日高村は、一部事務組合をつくって大変緊密な関係で仕事をされています。そこを合わせると、1人区にならずに2人区を残せるのではないかというようなことも検討できるのではないかというふうに考えています。 その点で、仁淀川町をどうするのか、日高村をどうするのかという検討すべき中身は、広がってくるのではないかというふうには考えております。
土森委員長	ちなみに、仁淀川町の面積、大変広いですね。
弘田委員	今まで、1票の格差の問題と1人の議員が担当する面積の問題とが出ております。 我々は、面積が広すぎたらいけないから、適当な面積でいってもらいたいという内容でずっと発言させてもらっています。 参加してきてないからわからないのですが、これまで、広さのことを、こういった場で議論してきたのでしょうか。そこを1回確認させてもらいたいです。 それから、1票の格差の問題とか、それに対する面積の問題が、どういうふうにあるべきかということ、1回きちんと話してから。例えば、黒潮町をどうするかとか、仁淀川町をどうするかとか。そういうふうな議論になっていかなければならないのではないかと私は考えます。 今回、我々は、面積が広いので高岡郡選挙区を何とかしなくてはならないということをご提案させていただきました。 それから、例えば黒潮町をどこかと合区するとなったら、文化的にいくと、どうしても四万十市になってしまうと思うのですよね。そうすると、また四万十市がものすごく大きな選挙区になってしまいます。1人区は解消できるのですが、ただ、また1人が担当する面積が広がるのでどうかなと思ってしまいます。 私の最終的な意見なのですが、高岡郡選挙区は、議論のとおり分区したらいいし、他のところは、とりあえず現行で置いておいて議論をこれからも続けていけるのではないかなと思います。
土森委員長	大体の意見が、高岡郡選挙区は広過ぎる、分区するという方向で今までもきたわけですね。 そのときに、さっき私が言ったように、越知町、佐川町、日高村と他のところを分区するという形でどうだということで、首長の意見を聞いてきました。その中で、中土佐町だけが現行どおりでいいというふうな話でありましたが、他の首長は、川筋で分区してくれという意見でありましたので、それを基本にしながら、ここで決めていくのか、それとも。 今話が出たように、仁淀川町のこと、確かに高岡郡の首長の話には出てきました。

- 仁淀川町の首長に話を聞くということが、人数的には少ないですが会派としてはそういう意見がまとめとしてはあるわけですね。
- 高岡郡選挙区の分区を基本に置いて、仁淀川町がどう考えるかという意見を一度聞きにいきますか。
- 仁淀川町の首長に御意見を聞くということで、この件は取りまとめておきたいと思います。
- それと、黒潮町の問題がありました。
- 日本共産党からは、黒潮町と中土佐町を。
- 塚地委員 間に四万十町が入っています。
- 土森委員長 ひっついていない。飛び地になる。
- 塚地委員 飛び地じゃなくて、中土佐町まで。海岸線でということですか。
- 土森委員長 なかなか難しいね。それは。
- 塚地委員 中土佐町までということですか。
- 土森委員長 四万十町も含めて。
- 塚地委員 要するに海岸線問題ですから。
- 先ほどおっしゃったように、黒潮町の最大の問題がいわゆる海岸線問題というのは、自由民主党の御意見でもあります。
- それは単独町という話ではなくて、その地域の海岸線に共通する問題でもありますので、海岸線沿いで、黒潮町から、四万十町、中土佐町まで。そういうふうにくくると、中山間地域の課題は中山間地域で共有する考え方もできると思っております。
- 土森委員長 高岡郡の首長に聞いたときも、そんな意見は出ておりませんのでね。
- 池脇委員 自由民主党から、黒潮町が単独選挙区の根拠が海岸線問題という話が出たからこういう話に広がったと思うのですよ。ちょっと広がり過ぎたと思います。
- 黒潮町は、今、1町で1人の県議がいる。非常に連携しやすいということを強調されたのだらうと思います。それはそれで、我々も受けとめればいいのではないかなど。
- それと、そういう観点から選挙区を分けるということになると、ちょっとずれてしまうような気がします。
- 御意見としてはそういう考え方もあるなということは我々も頭の中にとどめておきたいのですけれども、まずは、当初の出発が、選挙区が広すぎるので分割ができないのかということでありましたし、広いということのメリット、デメリットも関係の首長に御意見を聞かせてもらいましたので、そういうことも踏まえて、我々は選挙区の問題の答えを出していかなくてはならない。
- もう一方では、1票の格差という問題は重要であります。この点とのバランスをしっかりと考えながら、選挙区を考える必要があるかと思えます。
- さっきの黒潮町の海岸線問題は、ちょっと広がりすぎたと思います。私は、この議論はそこまでいく必要はないと思っています。
- 土森委員長 今、池脇委員が言われたように、確かに、1人区の問題、複数区の問題等々ありますが、黒潮町と四万十町と中土佐町という話になりますと、議論が広すぎて、

今回整理していくのは難しいと思いますけれどね。その辺はどうですかね。

その上で黒潮町の問題が出てきますので、今回は、黒潮町は単独選挙区で整理していくと。

今回は、四万十市と黒潮町をどうするかという議論は出てくると思います。おそらく、人口もずいぶん変わってくると思います。黒潮町選挙区が今 0.570 ですが、例えば 0.5 を割る場合が出てきたとするならば、そのときにまた検討していくということになると思います。

それと、奈半利町・田野町・安田町・北川村・馬路村選挙区が、今、0.549 となっていますが、こういうところも含めて、基本的には、0.5 を割るか割らないかということ。やはり、県民の皆さんの御意見を県政に反映していくということになりますと、0.5 というのはぎりぎりの線で置いていると思いますのでね。

そういうことで、きょうのところは、黒潮町選挙区は現行どおりとするということで、まとめさせていただいて、ようございますか。

高岡郡選挙区については、仁淀川町の話聞いた上で分区するかしないかということを決めるということ。

塚地委員

日本共産党は、基本的に、1 人区を解消する方向でどう検討するかということが非常に大きな問題だと考えております。

そうした視点で区割りを検討していくという考えは変わっておりませんので、お伝えしておきます。

土森委員長

そのことは前からの日本共産党の意見ですからね。一応、意見としては聞いておきたいと思います。

それでは、まとめさせていただきたいと思いますが、まず、高岡郡選挙区については、仁淀川町的首長の御意見を聞いた上で、次回に結論を得るということで、御異議ありませんか。

(異議なし)

土森委員長

日程については、2 月定例会も近づいており、年度内の実施は難しいと思います。新年度になってから、仁淀川町に速やかに御意見を聞きにいくと。そして、次回の委員会もそういう方向で日程調整をしていきたいというふうに思いますので、よろしくお願いたします。

(了 承)

土森委員長

次に、5 の「町村の区域の単独選挙区」についてです。

黒潮町選挙区につきましては単独選挙区のまま残すということで、御異議ありませんね。

(「異議なし」という声あり)

塚地委員

異議ありますけど。

土森委員長

後で。

塚地委員

後で。はい。

土森委員長

次に、7 の「ただし書きの適用」についてであります。

このことについては、総定数及び各選挙区がそれぞれ決定した後、最終的にどの

ような適用状況になるのかを確認した上で結論を出していくこととなりますが、今後の協議を円滑に進めていくため、本日は、まず、高知市選挙区については確認をしておきたいと思います。

前回の12月22日の委員会におきましては、大勢の御意見が、現行どおりただし書を適用し、定数を15人に据え置くということだったと思いますので、これに御異議ありませんか。

(異議なし)

土森委員長

それでは、さよう決めます。

2. その他

土森委員長

最後に、次回の委員会開催日についてであります。

先ほど申し上げましたように、年度内の開催は難しいので、新年度に仁淀川町の首長の御意見を聞く、そしてまた、次の委員会はその後にするということになります。

事務局に日程調整をさせますので、よろしく願いいたします。

その他で何かありませんか。

(なし)

土森委員長

それでは、協議事項は以上であります。

これで、本日の議員定数問題等調査特別委員会を終わります。

御苦労様ございました。